

7. 木質バイオマス利活用の実態 (30)

20240406

ペレット輸入主要国の産出国別シェア¹⁾

FAOSTAT の推計によると、2022 年の世界のペレット生産量は 4,846 万 t で、国別では米国 954 万 t、ベトナム 465 万 t、カナダ 383 万 t、独 357 万 t、ラトビア 214 万 t と続いている。これら諸国はすべて前年よりも増産しているが、ロシア産ペレットはウクライナ侵攻により欧州、日本への輸出が停止され、前年の 280 万 t から 207 万 t へと減らしている。このうち米国やカナダ産は英国、EU および日本市場に、ベトナム産は韓国や日本市場に、ラトビア産は EU 市場に輸出している。

一方、輸入主要国での輸入ペレット産出国別シェアは時々の状況によって変遷している。図表 7.34 は日本、イギリス、韓国の各市場について示したものである。

日本市場でのカナダペレットの輸入量は年々増加しているものの、そのシェアは 2015 年の 7 割を最高に徐々に減少し、21 年以降は約 3 割となっている。それに対抗してベトナム産のシェアが大きくなり 21 年には 6 割に達した。しかし FIT 制度での買い取り価格に関する FSC（森林認証制度）認証の偽装疑惑（生産可能量の 5.5 倍も認証）が浮上し、シェアの減少につながっている。折からの積極的な売り込みによる米国産ペレットのシェア急拡大が目立つ。23 年終了時点でのシェア

はベトナム 4 割、カナダ 3 割、米国 3 割である。

英国市場でのシェアは、2015 年時点ではカナダ産と米国産がイーブンであったが、以後カナダ産輸入量はほぼ変わらない（150 万 t/年）ものの米国産輸入量の増大により 17～21 年間のシェアは米国産 6 割、カナダ産 2 割で推移した。しかし 22 年以降、カナダは輸出市場の軸足を英国から日本に大きく転換（航路が 1/2 以下に短縮等）したことから英国市場でのシェアは著しく低下し、その反動として米国シェアが 80% 近くにも達し、まだ増大する様子が見られる。

韓国市場ではスポット市場での格安ペレットの輸入が多く、ベトナム産シェアが 7 割近くを占めていたが 20 年以降減少しつつある。そのほかにカナダ、マレーシア、インドネシア、タイなどの多国産ペレットが輸入されている。それらのシェアはいずれも 10% 前後と低い。ウクライナ侵攻に対する制裁により輸出先を失った格安ロシア産ペレット輸入を急拡大しているのが目立つ（7 (28) 参照）。

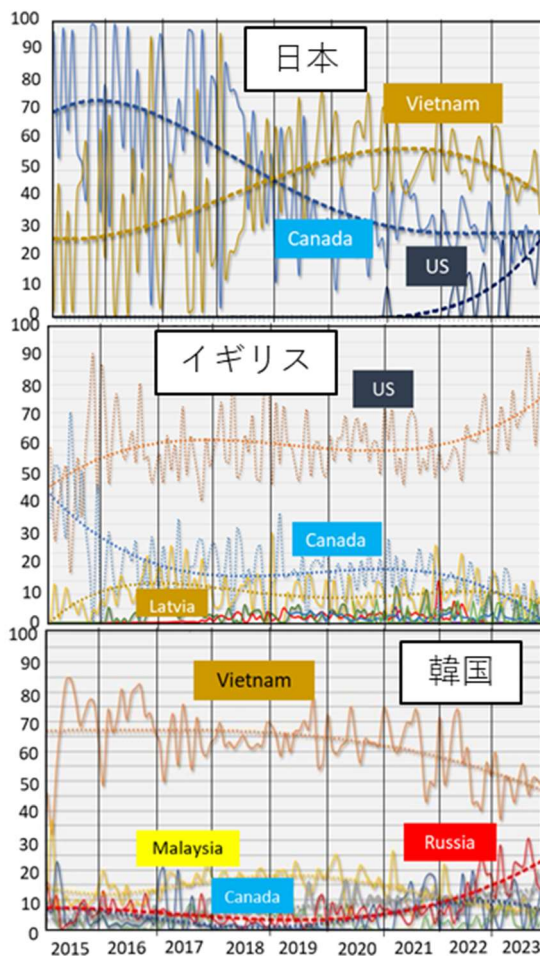


図 7.34 主要ペレット輸入国の産出国別シェア推移

1) 主として W. Strauss : Canadian Biomass, Jan. 8.

2024 を引用